２０１４／１２／２１　　クリスマス礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：恵みシリーズ１２、罪の赦しを与えるイエス
聖書箇所：ヨハネの福音書　８章１－１１節

　今日、私たちは「罪の赦しを与える神」をテーマに聖書のみことばを学んでいきます。「罪の赦しを与える神」、つまり、救い主が人としてこの世にお生まれになった、それが天使たちが人々に告げたメッセージでした。
⇒　天使たちは、イエスの誕生に際して、その目的を人々に語りました。
（１）ヨセフに　：　マタイ１：２１**「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」**
（２）羊飼いたちに　：　ルカ２：１１**「今日ダビデの町であなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」天使たちはそうして、私たちを罪から救ってくださる救い主がお生まれになったことを人々に告げました。」**
⇒　人々は、イエスの十字架に際して、イエスがだれであるかを告白した
　イエス・キリストが地上におられた約３３年間のその生涯を通して、イエスは多くの人々にメッセージを語るだけではなく、ご自分の生き様をもって、確かに、ご自分が救い主であること、確かに、ご自分が人となった神であることを明らかにして来られました。
（１）ローマの百人隊長
　イエス・キリストの十字架を目撃したローマの百人隊長は、その起こっている有様、光景を見て「確かに、この方は神の子であった」、つまり、この方は神であったと証言しています。マタイ２７：５４**「百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった」と言った。」**
（２）イエスとともに十字架に架けられた犯罪人のひとり
　また、イエスとともに十字架に磔にされた犯罪人のひとりは、**「:40 ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。:41 われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」:42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときには、私を思い出してください。」**（ルカ２３：４０－４２）、**「おまえは神をも恐れないのか。」**と言って、十字架に掛かってまでもイエスを嘲るもうひとりの犯罪人をたしなめています。
　イエスがこの世にお見えになった救い主であることを、今見たように天使たちも告げました。多くの人々がそれを証言しました。そして、イエス・キリストを信じた私たちも同じようにそのことを証言する者たちです。私たちはイエス・キリストによって生まれ変わったことを証言する者たちです。イエス・キリストによって変えられたことを証言する者たちです。主イエス・キリストが**「…人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」**（ヨハネ３：３）と言われたように、私たちは主のあわれみによって新しく生まれ変わった者たちです。主イエス・キリストは「救いを与える主なる神」であると、天使たちが、そして、人々が告白したのです。
　そして、主イエスご自身も、この世に人として来られた目的を次のように述べておられます。**「だれかが、わたしの言うことを聞いてそれを守らなくても、わたしはその人をさばきません。わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。」**（ヨハネ１２：４７）。ですから、このイエスのことばを聞く時に、私たちは「確かにそのとおりです！」と声を高らかに宣言をする者たちです。
　今日、私たちが見ようとしているヨハネ８章には、もちろん、その中にイエス・キリストの豊かな恵みを見ますが、特に、この箇所を通して学ぶことは、イエス・キリストは確かに一人の罪人を救いへと導いておられるということです。一人の罪人に罪の赦しを与えておられます。罪人を生まれ変わらせておられます。一人の罪人に本当の希望を与えておられます。まさに、罪の赦しを与える神です。その神が実際の行ないをもって罪の赦しを与えられたのです。今日見る箇所には、罪人の罪を赦すために来られた主イエスの救いのみわざが記されています。

☆罪の赦しを与える主

Ａ．罪人を招かれた主　　２節

　８：１には**「イエスはオリーブ山に行かれた。」**とあります。そして、２節**「そして、朝早く、イエスはもう一度宮にはいられた。民衆はみな、みもとに寄って来た。イエスはすわって、彼らに教え始められた。」**、こ

うしてイエスのみわざを何度も見るときに気付くことは、主イエス・キリストは常に罪人を招いておられたということです。イエスはどこに行かれても、そこに人がいるなら、そこでイエスは罪人をご自分のもとに、この救いへと招いておられます。

この箇所の背景を見ると、前回見たように、仮庵の祭りがあり、その祭りは終わりました。そして、７：５３に**「そして人々はそれぞれ家に帰った。」**とある通りです。家の近い人はそれでいいのですが、人々は遠方からもこの祭りのためにエルサレムに集まって来ていました。だから、エルサレムにはまだ人々がいたのです。イエス・キリストも夜を過ごすためにオリーブ山に行かれました。エルサレムの都の神殿のあるすぐ隣です。ケドロの谷を越えるとその隣がオリーブ山です。イエスはそこにおられたとみことばは教えています。そして、翌朝早く、再びその神殿に戻って来たのです。

想像できますか？なぜ、イエスがもう一度神殿に戻って来たのか？**「彼らに教え始められた」**と書かれています。人々がいた時にイエスはこの人々にすばらしい救いを宣べ伝え続けたということです。それが、イエス・キリストがこの地上に来られた目的でした。罪人をその罪から救うために、そして、イエス・キリストは時間を惜しんでそのメッセージを人々に語り続けておられます。再び、エルサレムの神殿でイエス・キリストはこの残された民衆たちに救いのことを話しておられたのです。なぜ、イエス・キリストはこんなに時間を惜しんで、すべての人々に救いのメッセージ、福音のメッセージ、罪からの救いのメッセージを語り続けておられたのでしょう？お分かりですね。それはこの救いのメッセージこそが人間にとって必要だからです。このメッセージがあなたにも私にも必要だからです。

悲しいことに、我々人間は例外なく、永遠の滅びへと向かっています。なぜなら、私たちは、私たちを造ってくださった創造主を信じることもなく、その方を心から崇めることもしません。私たちみなが言っていることは「これは自分の人生なのだから自分の好きなように生きる」です。私たちが最も忘れていることは何か？それはあなたを造ってくださった創造主なる神です。外に出て自然界を見るなら、私たちは気付きます。私も最近健康診断にいきましたが、自分の胃を見ていると気づきます。「不思議なものだ、驚くべきものだ」と。それは私たちに教えてくれます。「これらは偶然にできたものではない。造られたものだ」と。造ってくださった方の知恵がそこに見られます。造ってくださった方の美しさがそこに反映されています。我々を造ってくださった神を、我々は悲しいことに信じることもなく、崇めることもなく、感謝することもなく、その方に背いて私たちは生きているのです。

だから、救いが必要なのです。神に逆らっているその罪から救われるすべが必要なのです。だから、イエスはこの世に来られ、人々にこの救いのメッセージを語り続けたのです。人間にこのメッセージが必要だから、人間にこの救いが必要だからです。この祭りの後、イエスは同じように、このエルサレムで民衆に対して救いのメッセージを語っておられたと、そのことをまずここで見るのです。

Ｂ．罪を示された主　　３－９節

そして、この３節から見ると、あることが起こっています。罪人とされるひとりの人がイエスのもとに連れて来られるのです。３－９節「**:3 すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられたひとりの女を連れて来て、真ん中に置いてから、:4 イエスに言った。「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。:5 モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。」:6 彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。:7 けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」:8 そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。:9 彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。**」、何が起こったのかは明らかです。

１．律法学者とパリサイ人の新たな策略　　３－７ａ節

実はこれは、律法学者とパリサイ人による策略でした。もうすでに、彼らはイエス・キリストを憎み、何とか捕えて処分しようとするのです。そのことが７章に記されています。７：４５を見てください。**「それから役人たちは祭司長、パリサイ人たちのもとに帰って来た。」**とエルサレムから帰って来たのです。彼らはエルサレムにいたのです。**「彼らは役人たちに言った。「なぜあの人を連れて来なかったのか。」**、この役人たちは警官のようなものです。彼らはエルサレムに遣わされて、イエス・キリストを捕えて自分たちのもとに連れて来るようにと、その使命を負って送られたのです。ところが、おもしろいことに、この役人たちはイエスの話を聞いているうちに**「役人たちは答えた。「あの人が話すように話した人は、いまだかつてありません。」**（７：４６）と言っています。そこで、パリサイ人や祭司長たちは**「おまえたちも惑わされているのか。」**（７：４７）と答えています。捕まえにいったはずの彼らは手ぶらで帰って来たのです。それでこのリーダーたち、宗教家たちは次の策略を思い巡らしたのです。それがこの女性

だったのです。何のためにこの女性が連れて来られたのか？その目的は「イエスを殺すための口実を見つけるため」です。

１）彼らのわな　　３－５節

ここに「律法学者」とか「パリサイ人」ということばが出て来ます。律法学者とは「律法を書写したり、それを解釈して人々に教える役割を担っていた人物」です。パリサイ人とは「その律法を守り行なっていると自負していた律法主義者たち」です。彼らはいつも側にいたのです。そして、彼らは何とかイエス・キリストを捕えて殺そうとするのです。そこで彼らはわなを仕掛けるのです。イエスが罪を犯すようにと願って、わなを仕掛けるのです。

５節を見ると、姦淫の現場で捕まえられたこの女性に対して律法は何と言っているか？**「モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。」**とあります。確かに、律法ではそのように教えられています。例えば、レビ記２０：１０には**「人がもし、他人の妻と姦通するなら、すなわちその隣人の妻と姦通するなら、姦通した男も女も必ず殺されなければならない。」**とあり、また、申命記２２：２２－２４にも「**:22 夫のある女と寝ている男が見つかった場合は、その女と寝ていた男もその女も、ふたりとも死ななければならない。あなたはイスラエルのうちから悪を除き去りなさい。:23 ある人と婚約中の処女の女がおり、他の男が町で彼女を見かけて、これといっしょに寝た場合は、:24 あなたがたは、そのふたりをその町の門のところに連れ出し、石で彼らを打たなければならない。彼らは死ななければならない。これはその女が町の中におりながら叫ばなかったからであり、その男は隣人の妻をはずかしめたからである。あなたがたのうちから悪を除き去りなさい。」**と書かれています。つまり、こういう性的な罪に対して神は厳しいさばきを命じられたのです。今のこの社会では、このような性的不道徳は認められています。不倫をしても別に問題ないではないか、だれも傷つけていなければ…、自分が楽しめればそれで良いではないか…と。でも、残念ながら、聖書はそれに対して厳しいことを命じています。その罪はさばかれなければならないと。

確かに、この宗教家たちが言ったように、このような姦淫の現場で捕まえられた者は、その罪を死をもって償わなければなりません。確かに、これは今から約二千年前のイスラエルの話だ、もっと遡るなら、モーセの律法はそれ以前のことだというでしょう。しかし、皆さん、私たちが覚えなければいけないことは、あなたを造られた神、聖書が教えている神は全く聖い神であり、どんな罪もお赦しにならない方だということです。たとえ、社会がそれを容認したとしても、あなたがいずれ立ってさばきを受けるこのさばき主である神は、罪のすべてをご存じであり、あなたが行なったことも、あなたが考えたことも想像したことも、すべてご存じであり、それについて正しい審判を下すと言われている神です。

今の時代は二千年前とは違うからなどと言って、この罪を軽く見てはならないのです。神は罪を憎まれる方です。罪に対しては正しい審判を下される方です。確かに、彼らの言っていることはそうなのです。律法どおりなのです。でも、おもしろいと思いませんか？５節の後半に「律法はこう命じています。」と言ってから彼らはこのように言ったのです。**「ところで、あなたは何と言われますか。」**と。なぜ、こんな質問をするのでしょう？「律法はこう言っています。これを実行すればいいのでしょう？」とイエスに問うのであれば分かるのです。「律法がこう言っています。では、あなたはどう思いますか？」と、なぜ、わざわざこんな質問をするのでしょう？もちろん、この当時もそうでしたが、難しい問題を抱えた時に、律法学者やパリサイ人たちは律法により精通した霊的指導者であるラビたち、教師たちに質問をするということは為されていました。ですから、彼らがこの教師たちのところに行って「どうすれば良いのか？」と尋ねるということはおかしいことではなかったのです。ですから、４節には彼らが主イエスのことを「先生」と呼んでいることが記されています。「教え」や「歩むべき道」を示してくれるような人を「先生」と呼んだのです。

でも、そのように呼んであたかもイエスから真理を聞きたいと願っているようですが、全体を読んでみると、彼らはそんなことを願っていませんでした。先程から話しているように、彼らはイエス・キリストを罪に陥れようとするのです。それを表わすことば、二つの動詞が６節に出ています。６節**「彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。」**、**「ためして」**と**「告発」**という二つの動詞が、イエス・キリストにこのような質問したことの動機を示しています。

（１）イエスをためして　：　これには明らかに悪意が含まれています。

（２）告発する　：　何とかイエスを責めるその口実を見つけるために、彼らはそのような機会をうかがっていたと見ることができます。これは現在形です。主イエスの敵は継続して告発の理由を捜し続けているからです。

さて、先程からイエスを陥れようとしている「わな」だと話しています。なぜ、このことがそうなの

か説明します。
☆彼らの策略
彼らの策略はこうでした。「先生、律法の書では姦淫の女を石打ちにするようにと命じています。**『あなたは何と言われますか。』**」と、イエスの意見を聞くのです。
・もし、イエスが「石打ち」を禁止したら　：　もし、イエスがここで「いや、処刑してはいけない。石打にしてはいけない。」と言ったとしたら、当然、彼らはこう言うのです。「先生、あなたが今おっしゃったことは我々の律法に反することです。あなたは律法を犯したのです。」と、このようにイエスを責めることができました。
・もし、イエスが「処刑」に賛成したなら　：　「殺しなさい」、律法にそのように書かれているのだから「殺しなさい」と言ったとしたら、彼らはこのように責めるのです。「イエスさま、あなたはこれまで罪人の友として仲間として、罪人と時間を取ってあわれみを示して来られました。あなたが教えて来られたこととあなたが今言ったこととは矛盾しませんか？」と。また、もう一つ、彼らはこのように責めます。「先生、あなたが今言われたことは、実は、ローマの法律に反することでしょう。それで良いのですか？」と。実は、この当時、世界を治めていたローマは、ユダヤ人にユダヤ人を死刑にする権利を与えていませんでした。ユダヤ人の議会では死刑を求刑することはできたのですが、刑の執行は全部ローマに任されたのです。それが証拠に、ヨハネの福音書１８：３１を見ると、ピラトの前に立ったユダヤ人たちがこんなことを言っています。**「そこでピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、自分たちの律法に従ってさばきなさい。」**と、ピラトはイエス・キリストについてこのように言うのです。自分たちで引き取って自分たちでさばけば良いと。そうすると、ユダヤ人たちはこう言っています。**「ユダヤ人たちは彼に言った。「私たちには、だれを死刑にすることも許されてはいません。」**と、こういう法律がその当時は施行されていたのです。だから、ユダヤ人たちは自分たちでだれかを死刑に定め、その刑を執行することは無理だったのです。そうすればローマの法律に触れるからです。ですから、もし、イエス・キリストが「殺せ」と言ったら、「先生、それはあなたが教えて来たことに矛盾することを命じているし、また、あなたがこの人を殺せということはローマに逆らうことです。ご存じないのですか？今あなたがおっしゃったことはローマの法律に触れることです。」と。
こうして、彼らはどちらに転んでもイエスを責める口実を見つけることができると思っていたのです。ですから。人間的に見て、まさに八方ふさがりの策略を彼らが思いついた時に、間違いなく、彼らはこの妙案を自画自賛したことでしょう。「やった！これでイエス・キリストを追いつめられる。やっとこれでイエスを殺すことができる。」と。どちらの選択をしてもイエスを責めるに十分だったのです。
２）イエスの応答　　６節
さて、そのような悪意をもってイエスに近づいて来たこの宗教家たちにイエスは何とお答えになったのでしょう？６節の後半に**「…しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。」**とあります。つまり、何もお答えにならなかったのです。この**「…書いておられた。」**という動詞の時制を見ると、まさに、今この時にイエスは地面に書き始められたようです。何かずっと書いておられたのではなくて、この宗教家たちがイエスに問うたことをきっかけに、地面に何かを書いておられたのです。何を書いておられたのかはみことばは教えていません。
３）彼らの愚かさ　　７節
続けて７節を見ると、この宗教家たちの非常な愚かさを見て取ることができます。**「けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、」**とあります。**「問い続けて」**、この動詞は現在形です。つまり、彼らはしつこくうるさくそのことをイエスに問い続けていたのです。「どうなのですか？イエスさま、あなたは律法を愛する人ですね。それなら教えどおりに彼女を殺すべきですね。どうなのですか？こんな悪を放っておくことは間違っていますね。律法に従うべきですね、どうしたらいいのですか？」と、彼らはうるさくイエスに問い続けていたというのです。そのすべてはイエスに罪を犯させることが目的だったのです。愚かなことでしょう？罪を犯すことのない神に罪を強要するのです。
２．律法学者とパリサイ人の罪が明らかにされる　　７ｂ－９節
そして、イエスはこの宗教家たちに答えられています。７節の後半から**「…イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」:8 そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。」**とあります。
１）自己吟味を命じた　　７ｂ節
確かに、これは律法が教えていることでした。死刑に処するならば、証人たちがまず最初に手を下すように、それから民が手を下せと、申命記１７章７節に書いてあることをイエスはそのように言われた

のです。**「死刑に処するには、まず証人たちが手を下し、ついで、民がみな、手を下さなければならない。こうしてあなたがたのうちから悪を除き去りなさい。」**と。では、律法が教えているように、彼女を訴え出たあなたがたがまずやりなさいと言われたのです。しかも、イエスはここで**「罪のない者が」**と言われました。そのことばを聞いた時に、彼らは自分自身の心を吟味し始めるのです。彼らはその行動だけを見るなら、非常に宗教心に熱い人たちです。律法をかざして「律法を守り行なうべきだ」と言うのです。あたかも、自分たちが神に対して信仰心の熱い敬虔な者であるかのように振る舞うのです。しかし、イエスは彼らに自分自身の心に目を向けさせるのです。「確かに、あなたがたの行ないはそうかもしれないが、問題はあなたがたの心だ」と、その心の状態を問われるのです。

思い出しませんか？山上の説教でイエスは何をなさったか？自分たちは神の前に正しいと自分たちの聖さを自負している者たちに対して、「あなたがたの心はどうですか？」と問われました。マタイ５：２７、２８「**:27 『姦淫してはならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。**」「**:28 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。**」と。イエスが言われたことは「あなたは姦淫を犯していないと言うかもしれないが、問題はあなたの心だ。心の中で情欲をいだいたらもうすでにあなたは姦淫を犯した」と。神は人間の心のすべてを見ているということです。残念ながら、私たち人間は心の隅々まで見ることはできません。でも、神は心の隅々まで見ることができ、私たちがどんなことを考え、想像し、どんな思いを抱いているのか全部ご存じだ、それが神だと言うのです。だから、どんなに行ないが良くても心が汚れているなら、どうして、その人が神のさばきを逃れることができようと言うのです。

同じマタイ５：４８で「**だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。**」と言われました。そのように言われたら、彼らは後ずさりするしかなかったのです。心の中が本当に清い人が最初に石を投げなさいと言われて、彼らは後ずさりしました。年長者から、経験豊かな知恵のある人たちから徐々に、みな離れていったのです。

＊彼らがその場を去ったのは、自分の心が罪に汚れていることを否定できなかったから

２）自分の罪深さが明らかにされた　　８，９節

イエスが為されたことは、この会話を通して、この女に向けられている目を、そして、イエス・キリストに向けられている目を、自分自身に向けさせることでした。人のことを言う前にまずあなた自身を見てごらんなさい。あなたは自分が清いと言っているけれど、本当にあなたの心は聖められているのかどうか？イエスの為さったことは非常にすばらしいです。この宗教家たちは姦淫の現場で捕まえられた女性を民衆の前に連れて来ました。彼らは民衆の前でこの女性の罪を公にしたのです。そして、彼らはイエス・キリストに質問するのです。**「あなたは何と言われますか。」**と。恐らく、彼らは勝ち誇ったように大きな声でそのように質問したでしょう。そして、イエス・　キリストの答えを待っていたのです。

彼らはこの女性を辱めただけでなく、みなが見ている前で、イエス・キリストの罪を公にしたかったのです。みなにイエス・キリストが言うそのことばを聞かせて「ほら、見なさい。彼は罪に、さばきに価する」と、そのことを明らかにしたかったのです。ところが、この場で明らかになったのは、彼ら自身の罪です。自分は正しいと思っていたこの人たちが、この公の場で、実は、自分たちの心が罪に汚れているということを明らかに示されたのです。

皆さん、そうでしょう？この宗教的な振る舞いをしていた彼ら、この女性をイエスのもとに連れて来て、律法を盾にしてこの女性は滅ぼされるべきではないかと訴えたこの宗教家たち、でも、実は、そのように訴えていた彼らの心の中には、イエスを殺そうとする思いがあったのです。ですから、イエスは自分の心を吟味してみなさいと言われました。お分かりでしょう？この問題は…。彼らは「自分たちは罪がない」と思っているのです。自分たちだけが神に喜ばれていると思っていたのです。イエスは「そうではない。わたしはあなたたちの心の隅々まで知っている。あなたたちのうちには罪がある。」と、そのことを彼らに気付かせようとするのです。そして、彼らが最も望まない方法でそれは彼らに明らかにされました。人々の前で、自分たちがそのことを認める結果を自分たちに招いてしまうのです。

C．罪を赦された主　　１０－１１節

さて、こういう出来事が起こったと、最後に１０－１１節を見てください。彼女を訴え、そして、イエスのもとに連れて来た宗教家たちはみないなくなってしまいました。そこにいたのは彼女だけです。もちろん、他の民衆も残っていたでしょう。「**:10 イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」**」、イエスはここで彼らはどこへ行ったのかと問われます。その後、「**:11 彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」**」、イエスは何を言

われたのでしょう？１１節で言われていることはいったい何だったのでしょう？二つのことを見ます。

１．罪の赦し　　１１節

一つ目は「罪の赦し」です。イエスはここで「罪の赦し」を話されたのです。実は、彼女の罪を主はここで赦しておられます。ですから、主は**「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。」**と言われました。**「罪に定めない」**とは「非難する、咎める、有罪の判決を出す」という意味を持ったことばの否定です。「わたしはそれをしない」と言うのです。なぜ、そのようにイエスは言われたのか？彼女は救いに与っていたからです。

この女性が救われていた証拠が三つあります。一つ目は、彼女がこの場に連れて来られた時、彼女の罪は明らかにされていました。恐らく、イエスのもとに連れて来られた時に彼女は大変な恥ずかしさを経験していたでしょう。また、この後もしかすると自分は処刑されてしまうのではないかという恐れもあったでしょう。彼女は自分の罪を弁解できなかったのです。現行犯逮捕だからです。ですから、彼女は否応なしに自分の罪を認めていました。自分がどれ程大きな罪を犯したのか、彼女はもうその時に知っています。二つ目に、彼女は彼女を訴えた者たちがいなくなった時にその騒ぎに紛れて身を隠すこともできました。なぜ、恥ずかしい場所に残っているのですか？なぜ、彼女はそこに居続けるのですか？普通、私たちが考えることは、余りにも恥ずかしいことを経験するとそこから逃げ出したくなります。でも、彼女は逃げ出すのではなくてそこに居続けるのです。もう一つ、三つ目です。実は、彼女自身のことばが私たちに確信をもたらすのです。１１節に**「彼女は言った。」**とあり、その後に**「だれもいません。」**と新改訳聖書には書かれています。でも、実は、原語では「だれもいません。主よ。」となっています。この箇所の欄外には「原文では「主よ」との呼びかけがある」と注意書きがされています。彼女が使ったこの「主よ」ということばがそれです。「主よ」ということばは「神もしくはキリストに対する呼称、呼び名」です。ですから、彼女がここで**「あなたを罪に定める者はなかったのですか。」**と問いかけられたときに、「だれもいません。主よ。」と、彼女はこのイエスが真の神であり、そして、罪人を救うために来てくださった救い主であることを告白しているのです。

ですから、イエスがこの１１節で言われたことは、彼女がこの救いに与っていたゆえに**「わたしもあなたを罪に定めない」**、赦されているからです。

２．新しい人生　　１１節

もう一つ、ここで学ぶべきことは１１節の後半に**「…行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」**とイエスが言われたところです。イエスはここでこの女性に対して「これから罪を犯さなければ救われます」ということを言われたのでしょうか？イエスは「わたしは優しいから罪を見逃して上げます」と言われたのでしょうか？イエスはそんなことは言われていません。イエスは**「今からは決して罪を犯してはなりません。」**と言われました。それは、イエスはここで救いの方法を教えたのではなく「救われた者の歩む新しい生き方」を教えたのです。救われた者はこのように生きていきなさいと、その新しい生き方をイエスは彼女に伝えたのです。なぜなら、クリスチャンは良い行ないをする者として生まれ変わったからです。どれ程の良い行ないも人を救うことはありません。なぜなら、私たちの良い行ないは全部不完全だからです。しかし、救いに与った者たちは良い行ないをする者へと神が生まれ変わらせてくださったのです。

ですから、パウロが言うように**「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」**（エペソ２：１０）、それが救いではないですか？永遠のいのち、天国を約束された、それだけではないのです。クリスチャンというのは「神によって生まれ変わった者たち」です。神がその人を新しく造り変えてくださるのです。だから、造り変えられたゆえに、その人は造り変えられた者としての歩みをするのです。イエスが彼女にこのように言われたのは、「あなたは造り変えられたのだから、造り変えられた者として、これまでの罪の奴隷として生きて来た古い性質、古い生き方から離れて、新しい生まれ変わった者としての歩みをしなさい。」と勧められたのです。

まとめ

イエス・キリストは確かに世をさばくためではなく世を救うために来られたと、そして、ここで確かに罪に問われていたこの女性の罪を赦し、新しく生まれ変わらせてくださったと、そのことを見て来ました。彼女の罪が人々の前で明らかにされた。彼女自身も自分の罪に気付いたのです。でも、自分の罪が明らかにされ自分の罪に気付いたのは彼女だけではありませんでした。あの宗教家たちはどこに行ったのですか？自分の罪が示された時に、なぜ、彼らは出て行くのですか？彼女だけがそこに残ったと。面白いでしょう？人間は自分の罪が示されたときにどちらかの反応をするのです。ある人たちは罪が示

されたときに、救い主のもとに救いを求めて出て来ます。「神さま、私は罪深い者です。どうぞ、私を赦してください。私を生まれ変わらせてください。」と。ある人たちは自分の罪が示されたときに神からできるだけ離れようとします。そのことをここに見ることができませんか？この女性はイエスのもとに救いを求めて留まり続けます。しかし、宗教家たちは救いを拒んでイエスから離れて行ったのです。そして、救いを逃しました。あなたの選択はどちらでしょう？

主イエス・キリストを信じておられるなら、このすばらしい祝福はあなたに与えられました。彼女がいただいたように、あなたも罪の赦しをいただいて、すべての罪はキリストによって聖められてあなたは新しく生まれ変わって、この神とともに歩む人生を始めたのです。イエスは言われます。「それにふさわしく生きていきなさい」と。罪から離れて救われた者にふさわしく生きていきなさい。また、罪を犯したならそれを神の前に告白して、そして、救われた者として生きていきなさいと言います。どうぞ、そのように歩んでください。神がそのようにあなたを生まれ変わらせてくださったのですから…。

もし、この中でまだこの救いをお受けになっていない方がおられるなら、なぜ、あなたはこの主に背を向け続けるのでしょう？考えてください。神はあなたのすべてのことを知っています。あなたが言わなくてもあなたのすべてを知っています。あなたがどんなことをして来たのか、どんなことを考え想像して来たのか全部知っています。神の警告は「あなたの罪がさばかれる」です。そして、それでいながら、神はあなたを新しく生まれ変わらせる、あなたのすべての罪を赦して生まれ変わらせると招いておられるのです。その証拠がクリスマスです。

救い主が来てくださった。その証拠がイエスのあの十字架です。あなたの身代わりとなってイエス・キリストは死んでくださった。あの復活が今話して来たことがすべて真実であることを証明してくれました。皆さん、救い主は来られたのです。あなたを罪から救うその救い主は来てくださったのです。あなたのために完全な救いを備えてくださった。そして、イエスが為さったように、あなたをその救いへと招いておられます。なぜ、この救いを拒み続けるのですか？こんな神がいらっしゃるのに、こんな完全な赦しがあるのに、なぜ、あなたはそれを拒み続けるのでしょう？これまで逆らって来た罪を今告白して、悔い改めて、このすばらしい救いをいただくことです。主はあなたが「私を赦してください。私を生まれ変わらせてください」と、救いを求めて主の前に来るなら、あなたを救ってくださいます。なぜなら、救い主はあなたを救うために来てくださったからです。それを記念して祝うのがこのクリスマスです。どうぞ、このすばらしい救いをぜひいただいてください。今日、あなたが新しく生まれ変わり、心から神を喜び、感謝する人に変えられることを心から祈ります。

《考えましょう》

１．律法学者たちが、この女性を主イエスのところに連れて来た本当の目的は何でしたか？
２．どうして彼らはそのような思いを主に対して抱くようになったのでしょう？
３．彼女がイエスのことを「主」と呼んだのはどうしてですか？
４．「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」の
　　意味を説明してください。